下呂農林事務所の普及活動状況

令和５年１０月３１日

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■夏秋トマト・法人経営体　経営発展に向けた相談会を開催

【相談会の様子】

平成30年に下呂市で新規就農した２名は、今年７月にそれぞれの農業経営を統合し農業法人を設立し、９月には法人として認定農業者の認定を受けました。

現在、同法人では年間・季節を含め７名程の雇用を行っています。今後更なる経営安定を図るため、夏秋トマトを中心にほうれんそうなどを組み合わせた周年出荷体制の整備を進めています。

10月11日には、ぎふアグリチャレンジ支援センターの協力の下、農業経営者法人サポート事業（国）を活用し、法人として雇用する場合に留意する法的事項や他産業を意識した就業規則、雇用条件通知書などの整備について、スペシャリスト（社会保険労務士）からの助言を受けました。

同法人の代表取締役は、前職までの経験や認定新規就農者として５年間の農業経営の実績を踏まえて、法人の将来像を具体的にイメージできており、雇用や労働条件に関する的確な助言を受けられて、充実した相談会となりました。

今後、農業普及課では、同法人が経営発展できるよう、引き続き栽培面、経営面での支援を行っていきます。

（地域支援係）

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■粟　新嘗祭献穀に向けた栽培指導等を支援

【粟の収穫の様子】

今年度、下呂市金山町の農家が 11 月に行われる宮内庁の新嘗祭に献穀するため、粟の栽培を行っています。

５月 20 日には、粟の種子をセルトレイに播種し、育苗したものを６月 24 日に６ａのほ場に定植しました。その後、農業普及課では、農家、市、ＪＡ、農業振興課の協力の下、苗立ち状況や生育状況、病害虫の発生状況を確認するとともに、収穫適期や調製、選別方法などの支援を行いました。

今年の粟は、生育期間中の天候にも恵まれ、目立った病害や倒伏もなく、順調に生育し、９月 29 日と 10 月２日に収穫作業が行われました。その後、脱穀、選別、脱ぷを行い、精粟 10.4kg（10ａ換算で 17.3kg）を確保することができました。

10 月 18 日には、関係者で精粟５合を袋詰めし、桐箱に入れ、宮内庁掌典職あて郵送しました。

今後、農業普及課では、来年度粟を献穀する岐阜農林事務所へ粟の種子を提供するとともに、栽培方法や選別の仕方などの留意点について、情報提供を行います。

（地域支援係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■スイートコーン　次年度に向け今年の栽培結果を聞き取り

【栽培結果の聞き取りの様子】

下呂市スイートコーン研究会（会員 13 名）が生産するスイートコーン「南飛騨コーン」の今年の生産、販売が終了しました。

「南飛騨コーン」とは、研究会独自の基準をクリアした特選品の名称です。10 月３日には、同研究会の会員２名から、今年の栽培結果や反省点「南飛騨コーン」の出荷基準、販売のあり方などについて聞き取りを行いました。

会員からは、「体調不良などの理由で上手く作れなかった。出荷基準に合った物をあまり出荷できなかった。「南飛騨コーン」とそうでない物を明確に区分する仕組みが必要ではないか。」など、栽培面、販売面についての意見がありました。

今後、農業普及課では、他の会員からの意見も聞き取り、今年産の状況を総括し、次年度の栽培、販売につなげていきます。　（地域支援係）

地域資源を活かした農村づくり

■水稲　馬瀬小学校の稲刈り体験を支援

【稲刈りを頑張る児童ら」

下呂市馬瀬地域は、清流馬瀬川の水と冷涼な気候を生かした良食味米の生産が行われています。

下呂市立馬瀬小学校では、毎年、農家の協力を得て、農業体験を行っています。今年は６月３日に３ａの水田にコシヒカリの苗を手植えし、10 月７日には収穫作業を行いました。

当日は、農業普及課から児童や保護者約 30 名に対して、鎌の持ち方や稲刈りの手順、注意点について説明をしました。

児童らは、最初恐る恐る鎌を使っていましたが、次第に鎌の使い方にも慣れ、和やかな雰囲気の中での稲刈り体験となりました。また、児童からは、「鎌の使い方が分からなかったが、力の入れ方や刈り方が分かった。」「手刈り作業が大変だった。」といった意見があり、貴重な体験となりました。

同校では、ＪＡひだが実施している「飛騨の美味しいお米コンクールの小学校部門」にも出品を予定しており、昨年に引き続き受賞が期待されます。

今後、農業普及課では、お米コンクールへの出品支援を行うとともに、次年度の田植え体験や稲刈り体験の支援を行っていきます。　（地域支援係）